



水道橋畔発

Transmission from SUIDOUKYOHAN

第14号 平成23年6月

新任のご挨拶

総合歯科 歯科補綴学分野 山下秀一郎



この度、教授会のご推挙により平成23年4月1日付けをもちまして、東京歯科大学口腔健康臨床科学講座（歯科補綴学分野）の教授に就任いたしました。伝統ある本学の教授を拝命することは、身に余る光栄でありますとともにその責任の重さを痛感しております。

私は昭和59年に東京医科歯科大学歯学部を卒業後、同大学の歯科補綴学第1講座に15年間所属いたしました。その後平成11年に松本歯科大学に異動し、平成16年からは大学院顎口腔機能制御学講座の教授として本年3月まで12年間勤務いたしました。この間、臨床研究の観点から咀嚼や咬合に関する理解を深め、その成果を、教育、臨床の現場に反映させてまいりました。歯科全体の疾病構造の変化に伴い、咬合の回復と保持が身体の健康維持に重要な役割を果たすことが明らかになってきています。顎口腔系における咬合の役割を中心とした研究の充実を図ることで、顎機能を客観的に評価しうる明確なエビデンスを確立することができるものと考えております。

医療に対する社会的要請がますます厳しいものとなっている中で、水道橋病院は、その伝統と立地条件から地域の中核的な病院として大きな期待が寄せられております。一戸病院長のもとで、我々は社会の要請や期待に応えるべく、安全、快適で高品質の医療と高いレベルの教育を提供する責務があります。一口腔単位での治療計画の立案から始まり、確実な臼歯部咬合支持の回復こそ、快適な咀嚼機能を営むために最も重要であり、おいしく食事をするというQOLの向上に直結する課題であると考えております。包括的な歯科医療を展開する上で、総

合歯科の担当となることは、これまでの自らの臨床経験を大いに還元できる場をいただけたものと大変感謝しております。東京歯科大学ならびに水道橋病院の発展のために精進努力してまいり覚悟でございますので、皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新任のご挨拶

総合歯科 歯科保存学分野 澁川義宏



本年4月から千葉病院保存科から異動して参りました。私は平成4年に本学を卒業し、歯科保存学第2講座（現歯周病学講座）に入局以来、主に歯周病学の臨床、研究、教育に取り組んで参りました。今後はこれらの経験を生かし、本学のスムーズな水道橋移転と水道橋病院の発展のために邁進してまいりたいと決意を新たにしております。

近年、歯周病は単に口腔内にとどまる病気ではなく、糖尿病などの全身疾患と相互に影響を及ぼしあう疾患として捉えられ、益々、歯周病の治療と予防の重要性が高まっています。歯周病は単純性歯肉炎から、診断や治療が困難な重度侵襲性歯周炎、重度慢性歯周炎などが存在し、歯周病学のみならず、歯科基礎医学や補綴学、矯正学、口腔外科学などの歯科全般にわたる幅広い知識と経験が要求され、他科との連携が非常に重要になります。水道橋病院の医療連携の特性を生かすとともに、若手医局員の教育として、診断や技術の指導、さらに、頻回のカンファレンスを行ってレベルの向上を図り、ひいては日本歯周病学会認定による認定医・専門医を養成し、質の高い歯周治療を目指していきたいと考えております。治療においては自らの研究テーマである再生療法、特に、先進医療のエナメルマトリックスタンパクを用いた

東京歯科大学水道橋病院の理念「思い遣りの心に依る医療」

バイオレジェネレーション法や GTR 法、骨移植術などの積極的応用、さらに歯周病患者のインプラント治療のニーズが高まる中、口腔インプラント科と連携し、歯周病学的側面から予知性の高いインプラント治療を確立していきたいと考えております。今後、皆様との地域医療連携をさらに充実し、信頼に応えられる医療を提供していきたいと思っておりますので、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

より良い医療連携を目指し第 10 回 水道橋病院症例報告会を開催

矯正歯科 片田英憲

平成 23 年 5 月 19 日（木）、水道橋病院 13 階教室において第 10 回の症例報告会を開催しました。今回のメインテーマは「水道橋病院は、全身と口腔をつなぎます」としました。水道橋病院では、口腔を全身の一部として捉え、様々な歯科疾患に対応しており、その取り組みの一部をご紹介します。開業医の先生方が日常臨床で遭遇する諸問題の解決の糸口となるよう企画いたしました。その内容は、歯科だけではなく全身に関連するものいたしました。

第 1 演題は眼科の吉野真未助教による「ドライアイ最前線 —あなたもドライマウス？ドライアイ？—」で、最近注目されているドライアイについてお話をしました。第 2 演題は矯正歯科の宮崎晴代講師による「先天性疾患に伴う矯正治療について」で、以前から保険による矯正治療が認められていた唇顎口蓋裂や顎変形症に加え、新たに保険適応になった様々な先天疾患の矯正治療についてご紹介しました。30 分間の軽食・休憩をはさんだ後、第 3 演題は齋藤 淳教授による「歯周病のリスクマネジメントとしての禁煙指導」についてお話をしました。（齋藤教授は、今年 3 月まで水道橋病院で歯周病を担当しておりましたが、4 月に本学歯周病学講座教授に就任いたしました。）続いて内科村井恵子看護師が「水道橋病院禁煙外来の取り組み」についてご紹介いたしました。最後の第 4 演題は「患者急変時の対応」ということで、水道橋病院長で歯科麻酔学講座の一戸達也教授がお話いたしました。これは普段の処置中に起こりうる患者の急変に対する対応ということで、日々の臨床に携わるうえで重要な内容だったかと思います。

今回は、会場を昨年までの 2 階血脇記念ホールから 13 階教室へと変更し、開始時間も開業医の先生方からのご要望により 18 時と変更させていただきました。お陰さまで、今回も多くの開業医の先生方にご参加いただき盛会となりました。ご来場いただきました先生方には

大変感謝しております。ありがとうございました。

水道橋病院は、大学機能の水道橋移転を 2 年後に控え、今後も開業医の先生方とさらなる医療連携を築けるよう努力してまいりたいと考えております。皆様方のご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。



一戸病院長による講演



症例報告会風景

第 7 回東京歯科大学 外科的矯正治療勉強会を開催

口腔外科 笠原清弘

平成 23 年 1 月 20 日（木）、TDC ビル 13 階教室において東京歯科大学外科的矯正治療勉強会を開催しました。3 病院の口腔外科・矯正歯科が中心となり開催してきました本勉強会も今回で第 7 回を迎えることができました。ひとえに本会へ御参加いただいている歯科医師、歯科衛生士、スタッフの皆様のおかげと感謝申し上げます。

今回は「Air way から考える咬合の安定性」をテーマに、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する外科的治療として顎矯正手術が注目を浴び、またその予防として矯正歯科医による上顎の rapid expansion も最近の話題となっていることを受けて活発な討論が行われました。千葉病院口腔外科からは渡邊 章助教が「上顎をこんなに移動して息できるの？大丈夫？」と題して、鼻腔の通気性を考慮した上顎の垂直移動についての講演を行いました。次いで水道橋病院口腔外科から高野正行准教授・副病院長が「移動量の大きい症例の術後経過について」のタイトルで高度の骨格異常を対象とした発表を、さらに

市川総合病院歯科・口腔外科の外木守雄准教授が「閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者の顎矯正手術の周術期管理の問題」についての講演を行いました。

そして特別講演として、千葉大学大学院医学研究院麻酔学講座の磯野史朗准教授をお迎えし、「成長発育に関連する呼吸安定性の重要性について」と題してご講演いただきました。磯野先生は、呼吸に関する生体メカニズム解明の権威として知られている麻酔科医で、小児の閉塞性睡眠時無呼吸症候群の病態、呼吸生理／サイクルの基礎知識と睡眠呼吸障害への診断と治療などについてお話しいただきました。古くから歯科矯正治療の成否には上気道抵抗（扁桃腺肥大やアデノイド肥大など）が深く関与していることが知られており、今後の臨床に直結する大変興味深く有意義な勉強会となりました。

今回は7月21日（木）17時30分よりTDCビル2階の血脇ホールにて「口唇口蓋裂の治療について（仮）」と題して、内山健志教授（千葉病院口腔外科）と坂本輝雄講師（千葉病院矯正歯科）による特別講演の予定です。口唇口蓋裂患者の治療に興味をお持ちの先生方は、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。お申込・お問合わせは、水道橋病院矯正歯科片田（03-5275-1724）までお願いいたします。

インプラント科勉強会を開催

口腔インプラント科 田口達夫

日頃よりインプラント科への診療のご依頼を頂き、心より感謝申し上げます。去る平成23年4月12日（火）18時より、口腔インプラント科主催の勉強会を開催しましたのでご報告致します。

近年の歯科治療の進歩は、日々めまぐるしいものがあり、患者さんからの審美的な要求からオールセラミック製補綴物の需要が高まっております。そこで、審美性と耐久力に優れた新世代のオールセラミックシステム「IPS e.max® system-One System for Every Indication-」について、Ivoclar Vivadent K.K.テクニカルサポート・アシスタントマネージャー阿部健太郎さんから話をうかがいました。会には院内外から20名ほどの歯科医師、歯科技工士のご参加をいただき、従来の審美系素材に付きまとういわゆる「割れる」というイメージへの対応をうかがいました。そして、このe.maxでは、高精度のプレス技法により高い強度と均一性を持った修復物を作成することができ、従来起こっていた補綴物のトラブルを回避するための朗報と考えられる内容でした。講演後には活発な質疑応答が行われ、

製作法や症例に応じた材料選択、クラウンブリッジ症例への適用に加えてインプラント症例への適用、さらに審美補綴分野での活用の可能性が示されました。

今後も、このようにオープンな勉強会を企画し、幅広く情報発信していく所存です。今後とも宜しくお願い致します。

歯科技工スキルアップに向けた千葉・水道橋技工室合同勉強会

歯科技工室 平林 剛

この度の東日本大震災におきまして被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。またこの震災で3月に予定されておりました技工室勉強会が延期となり、参加を予定されていた皆様にご迷惑をおかけしたことを、心よりお詫び申し上げます。

3月の勉強会で取り上げる予定だったのは「松風 フィットレジン」です。フィットレジンとは流し込みレジンですが、専用の加圧填入器と重合釜からなるシステムを利用して重合操作を行います。従来品に比べ重合収縮がおさえられ、良好な適合・強度が得られるとされています。本年2月に水道橋病院技工室にも本システムを導入いたしました。義歯（顎補綴等大型の物を除く）や顎関節用スプリント、インプラント診断用ステント製作の際に使用しておりますが実際使ってみて評判通りの対磨耗性、適合性を実感することが出来ました。勉強会をかねこのシステムを皆様に紹介する機会をあらためて設けようと考えています。日程は決まり次第お知らせ致します。

今回の技工室勉強会は安倍健太郎氏（イボクラ社）による「ハイブリッドレジンについて」を予定しております。こちらも皆様のご参加をお待ちしております。これからも気になる器材や材料を技工室の視点から紹介していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



加圧填入器と重合釜

水道橋への大学移転と病院改修工事の予定について

水道橋病院総務課 小林友忠

さいかち坂校舎（仮称）の建設工事予定については、既に水道橋畔発第13号（平成22年12月発行）においてお知らせいたしました。平成23年2月19日（土）、さいかち坂校舎建築予定地において同校舎起工式を厳粛に執り行い、大学移転に係る工事の無事を祈願いたしました。この日をもって大学移転に係る2棟の新築工事、水道橋病院を含むTDCビルの改修工事が本格的に開始となりました。それぞれの工期は、さいかち坂校舎（仮称）新築工事が平成23年2月から平成24年2月、新館校舎（仮称）新築工事が平成23年6月から平成25年5月、本館校舎（仮称・水道橋病院を含む現TDCビル）改修が平成23年3月から平成25年2月を予定しております。3月11日に発生した東日本大震災により建築物資等の調達が難しくなることも予想され、予定通りに工事が進行できるか心配されるところです。

水道橋病院のあるTDCビルは、1階から4階の病院改修を行う他、5階から上の階で教室、研究室等への改

修工事を行います。病院の改修としては、総合受付が3階から1階へ移動する他、2階、3階に新しい診療室を増築いたします。また、眼科、内科の診察室も移動・改修いたします。1階受付の改修Openは、本年12月頃を予定しております。病院改修にあたっては、開院しながらの改修でいわゆる“玉突き工事”となりますが、患者様にご迷惑がかからないよう、診療に影響がないよう工事を行います。

今後の工事日程等は、本紙水道橋畔発などでもお知らせすることとしておりますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。



起工式（平成23年2月19日）

水道橋界隈スケッチ

「さいかち坂」



来年4月から新入生を『さいかち坂校舎（仮称）』で迎える。さいかち坂は、【皂角坂】と書く。『新撰東京名所図会』には「駿河台鈴木町の西端より土堤に沿いて、三崎町の方に下る坂なり」『新編江戸志』には「むかし皂角坂樹多くある故に、坂の名とす。」と書かれている。今は、銘板の脇に大きな皂角の木が一本ある。水道橋病院から御茶ノ水駅方面へ急坂を登る。始めは頭上の高架を走っていた電車が、だんだんと視線の高さに現れ、新校舎建設現場まで来ると電車は足元にある。視界が開けスケールの大きな空間が現れる。遠く江戸の時代には浮世絵にも描かれる景勝地であったとか。この辺りはアテネフランセや明治の文豪たちが関わった文化施設も多く残されている。このような素晴らしい環境のもと新入生を迎えるのが待ち遠しい。

東京歯科大学水道橋病院	直通電話番号（各科受付）一覧
総合歯科	03-5275-1721 1722
口腔インプラント科	03-5275-1760
小児歯科	03-5275-1723
障がい者歯科	03-5275-1723
矯正歯科	03-5275-1724
口腔外科	03-5275-1725
歯科麻酔科	03-5275-1851
眼科	03-5275-1856
内科	03-5275-1926
放射線科	03-5275-1953
FAX（各科共通）	03-3262-3420

水道橋病院 診療案内

初診受付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
診療時間	平日 午前9時から午後5時 土曜 午前9時から午後12時
休診日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日（2月12日）、年末年始

水道橋畔発編集委員

編集委員長 片田英憲

編集委員 大多和由美、高野正行、古澤成博、
山下秀一郎、仁科牧子、関根秀志、
辻野啓一郎、鈴木福代、上島文江、
小林友忠、高木直人、藤倉隆行